

## 〈第11回市民協働フェスティバル「まちカフェ」2017年度〉

2017年12月3日(日) 10:00～16:00 場所:町田市役所全館

第11回市民協働フェスティバル「まちカフェ」が、今年も12月3日に町田市役所の1階から3階のフロ

アールを題材に参加者に懇切丁寧に指導されてい

アールいっぱいで開催されました。これは、町田市内で活動するNPO法人、市民活動団体、町内会・自治会等の地域活動団体が一堂に集い、活動発表や手作りの商品、地場野菜の販売などを通じて交流を深めるイベントです。フェ



市役所1階の会場風景

スティバルは午前10時に石阪市長の開会宣言でスタートしました。まだ11回目と歴史は浅いわけですが、参加団体は日頃の成果を訪れる市民にアピールすべく一生懸命声を張り上げていました。

わんりいは、一昨年から参加しており、今年が3回目となります。これまで祭りの様子が充分わからないまま参加してきました。一昨年は手始めに中国茶や中国黒酢、ピータンの販売をしました。昨年は活動の趣旨



「わんりい」ブースの看板

に添うものとすべく、「中国文化を楽しむ」をテーマに午前は中国の剪紙(ハサミを使って剪る切り絵)、午後は水墨画の体験教室で参加しました。剪紙は何さんのご指導よろしく予想以上の人気を集めました。午後は日中水墨画協会・会長の満柏さんが2017年の干支である酉・にわとりと、四君子と言われる、梅・蘭・竹・

作品に満足され、全員半紙に描いた作品を大事そうに持って帰られました。

中国文化を身近に体験することは日頃はあまりないだけに、参加者にとってはいい体験だったと思いますし、その喜ぶ笑顔を見るとわれわれ準備委員は一日の疲れが吹き飛ばすようでした。

(報告:寺西俊英)



満柏さん(左端)の指導で水墨画教室



元気いっぱいの子もたちの作品

これらの経験を踏まえ、今年度はラオスの少数民族であるモン族の刺繍小物の販売と昨年の満さんによる水墨画教室を午前・午後とも開きました。刺繍小物は11月3日の夢広場でも好評を博しました

が今回も多くの方に購入していただき、モン族の支援につなげることが出来ました。水墨画教室は来年の干支である「戌(犬)」が題材にされました。満さんの「まず目を二つ描いて、それから口と鼻をこのようにその下に加えて…そうそう…」のように言われる通りに描いていくと、次第に犬の顔が出来上がります。皆画家の気分です。昨年よりさらに子供たちの参加が多く、目を輝かせ、一時は順番待ちができるほどでした。